

土砂災害に備えて

大雨の時など避難の際に必要となりますので、家族全員がわかる場所に貼っておきましょう。

土砂災害警戒区域や避難所等を確認しておきましょう!

黄色で囲まれた範囲(土砂災害警戒区域)は「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」です。

赤色で囲まれた範囲(土砂災害特別警戒区域)は、「建築物に危害が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域」です。

土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、大雨のときには警戒避難が必要となる可能性がありますので、注意してください。

雨が強くなってきたら、積極的に雨量情報、予報、警報等の情報を入手しましょう!

まずはテレビやラジオ等で気象情報を確認しましょう。

雨が強くなってきたら、電話やインターネットでも確認しましょう

インターネットによるサービス

・北海道防災情報ホームページ

[http://www2.bousai-hokkaido.jp/pc/\(3gwm5f45lw2zxo2gf4iems55\)/index.aspx](http://www2.bousai-hokkaido.jp/pc/(3gwm5f45lw2zxo2gf4iems55)/index.aspx)

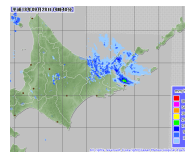
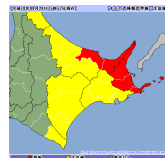
・気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jma/>

携帯電話によるサービス

・北海道防災情報ホームページ

<http://www2.bousai-hokkaido.jp/mobile>

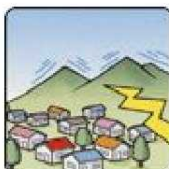


～雨の強さと災害の発生状況～

1時間雨量	人が受けるイメージ	発生状況
10～20mm 未満	ザーザー降る。	長く続くときは注意が必要。
20～30mm未満	どしゃ降り。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模ながけ崩れが始まる。
30～50mm未満	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
50～80mm未満	滝のように降る。	都市部では地下室や地下街に濁水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80mm以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要。

前兆現象を見つけたら、直ちに市役所や消防本部に連絡しましょう!
また、早めの避難を心がけましょう!

こんな前兆現象に注意!



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



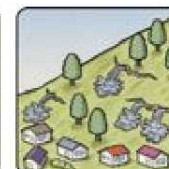
川の流れが濁り流木が混ざりはじめ



小石がバラバラ落ちてくる



地面にひび割れができる



斜面から水がふき出す

日頃からの確認



雨が強くなってきたら



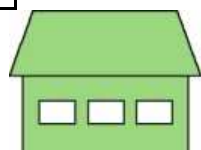
前兆現象を見たら



避難のときは



避難所



神楽岡地区センター
住所: 旭川市神楽岡12条2丁目
電話: 0166-65-7333

緑新小学校
住所: 旭川市神楽岡4条5丁目
電話: 0166-65-0735

災害時要援護者利用施設とは
高齢者や障害をお持ちの方、乳幼児など、防災上の配慮を要する方々が利用する施設です。具体的には、高齢者施設・障害者施設・保育所・幼稚園・病院・診療所などが該当します

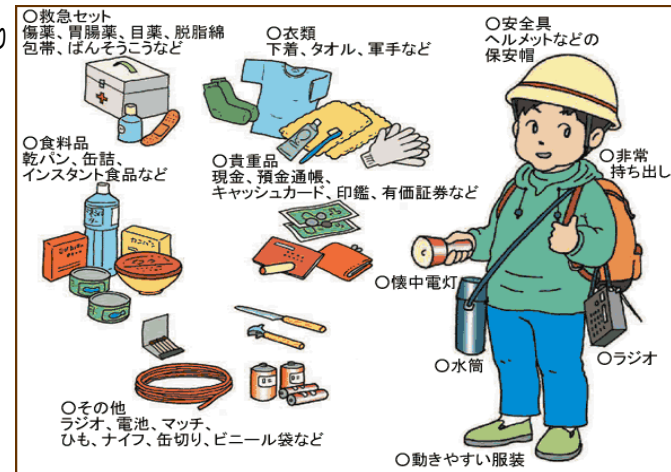
避難準備情報が出たら、家族との連絡、非常持出品の用意などを開始しましょう!

避難勧告などの連絡があったら直ちに避難しましょう!

避難所への避難が困難な場合には、周囲の建物より比較的高い建物(鉄筋コンクリート等の堅固な建物)の2階以上(斜面と反対側の部屋)に避難するなど、生命を守る最低限の行動をしてください。

避難の際はこんなことに気をつけましょう!

- 避難所へ避難する場合は、他の土砂災害危険箇所や浸水想定区域(浸水するおそれがある区域)を避けた避難経路を選択しましょう。
- 渓流から直角方向に避難し、できるだけ渓流から離れましょう。
- 携行品は限られた物だけ(非常持出品)にしましょう。
- 服装は軽装とし、帽子、雨合羽、防寒用具を携行しましょう。
- 火気の始末をし、火災が発生しないようにしましょう。
- 戸締まりをしましょう。



家族と連絡がとれない時は...

NTT災害用伝言ダイヤルの活用(忘れてイナイ)
メッセージの録音: 市外局番 + 171 + 1 + 自分の家の番号
メッセージの再生: 市外局番 + 171 + 2 + 自分の家の番号
携帯電話からもかけられます。

気象情報・避難情報の伝達経路

避難勧告などの伝達は、広報車、インターネット等による広報のほか可能な方法により行います。また、テレビ、ラジオ等の放送機関に放送を依頼します。大雨時には電話回線が込み合う場合がありますので、前兆現象の通報以外には、できるだけ使用されないようにお願いします。

